

こども教育宝仙大学と東京都中野区との地域連携について

—保育者養成・子育て支援・地域社会—

Community-based Cooperation between
Hosen College of Childhood Education and Nakano-Ku

指 田 利 和
SASHIDA, Toshikazu

I. 本学の地域連携に関する基本的な考え方

今日、人々の価値観やライフスタイルが大きく変わる中で、子どもを取り巻く問題は増々複雑になってきている。また、保護者の高学歴化が進み、保育者の質が問われるようになって久しい。また、子どもを中心とする地域社会の現況の把握が、幼児教育・保育関連施設における現状の分析と共に必要になっている。このような状況にあって、幼児教育・保育および子育ての質の向上を図るためには、保育者の質を高めることが最も重要である。

本学は、『こども教育宝仙大学設置の趣旨等を記載した書類』において「幼児教育・保育及び子育ての質の向上は、保護者の役割が極めて重要」と明記し、加えて、「幼児教育・保育の専門家による幼児教育の充実や保育関連施設の拡充だけでは十分に実現できるものではなく、地域における各種サービスや家庭での教育等を通じた幼児の生活全体の見直しや大人と子どもの関係づくりが必要である。」との考えから、開校以来、“地元”である東京都中野区をはじめとする地域社会との連携を強化し、充実・拡充を図っている。

とりわけ、保育者養成機関である本学の地域連携は、幼稚園・保育園等で行われている幼児教育・保育と地域において提供されている多様な子育てサービスを相互に連携させ、総合的にそれらの質の向上を図ることを基本とし、教職員・学生による地域密着型の社会貢献を目指している。

(この意味においても、本学が前身の短期大学における二種免許状に替えて、一種免許状を持つ卒業生を幼児教育・保育関連機関に送り出すことに加え、二種免許状所有の保育者・社会人に対する一種免許状への切り替えを積極的に推進し、一種免許状を所有する保育者の割合を増やすことの意義は大きいと言える。)

こども教育宝仙大学 准教授

II. 東京都中野区との地域連携

本学は、『こども教育宝仙大学設置の趣旨等を記載した書類』に掲げた目標を実現し、“地元”東京都中野区が『基本構想』および『新しい中野をつくる10カ年計画(第2次)』で描く将来像実現の一翼を担うため、学内で協議を重ね、平成22年7月12日、東京都中野区に対し、地域連携を希望する旨申し入れを行った。

ここで、本学が特に留意したのは、東京工芸大学等の大学と既に連携事業を推進している中野区に対し、保育者養成機関である本学ならではの特色を活かしたきめの細かい協力体制を維持しながら、専門知識、技術、教育・研究成果を地域社会に還元し、中野区の目指す将来像の実現に積極的に協力していくことであった。

具体的な提案は、以下の通りである。

1. 中野区の幼児教育・保育・子育て支援施策への提言
社会全体として「子育て困難」を抱えている状況の中で、家庭・雇用・幼児教育/保育施設の全体を総括しながら政策提言を行う。
2. 中野区中央図書館および地域の図書館との有効なネットワークづくりとその活用を検討し、図書館を通じた催しもの・公開講座の相互連携を行う。
3. 本学教員の人材活用：講師派遣
 - ・幼稚園、保育所、児童館の職員研修、保護者会などでの講演会やワークショップ等
 - ・幼児研究センターおよび地域子ども家庭支援センターでの学習会、講演会等
4. 各施設等の職員と本学教員および学生による共同研究、共同実践活動
 - ・幼児教育・保育における表現領域
音楽・リトミック、造形・工作・絵画、運動遊び、児童演劇・ドラマ、児童文化等
 - ・特別支援教育についての連携

幼稚園、保育所、児童館、学童クラブ、小学校等・児童福祉施設（特に児童養護施設）との恒常的連携

Ⅲ. 東京都中野区の地域連携に関する基本的な考え方

東京都中野区は、『中野区基本構想』（平成22年2月19日改訂）において、将来の都市像を「多彩なまちの魅力と支えあう区民の力」のある「まち」として描き、

1. 持続可能な活力あるまちづくり
2. 自立してともに成長する人づくり
3. 支えあい安心して暮らせるまち
4. 区民が発想し、区民が選択する新しい自治

の4つの領域を掲げ、それぞれの方向性を明らかにしている。

このうち、「2. 自立してともに成長する人づくり」において、

2-1 家庭を基本に、地域全体で子どもをはぐくむまち

- ・家庭は、愛情と責任を持って子どもを育てている
- ・子育て家庭を地域社会のつながりの中で支える体制が整っている
- ・子育て支援などのサービスが整い、子育て世代が不安を抱かずに暮らすことができるようになっている

といった具体的な将来像を掲げている。

こうした「中野のまちの将来像」を実現するため、これまでの計画の見直し・改善を進めながら、『新しい中野区をつくる10カ年計画（第2次）平成21年度～平成31年度』を策定し、その「未来への扉をひらく4つの戦略と重点プロジェクト」の中で、「戦略3 元気いっぱい子育て戦略」を提言し、10年後の中野区の姿と目指す方向を明らかにしている。

この戦略では、

- ・安心して子どもを産み育てられる支援の拡充
- ・地域ぐるみで支える子どもと家庭
- ・かしこく優しくたくましい社会の担い手を育てる

の展開が着実に実行できるよう、区政運営の指針が述べられている。

このような構想実現に向けて、中野区は平成21年度以降、大学との連携事業を積極的に計画・実施している。平成22年度までに連携を行ったのは東京工芸大学および東洋大学である。

東京工芸大学とは、平成20年に『中野区と東京工芸大学との相互協力に関する基本協定』を締結し、連携の共通目的として、区の「基本構想で描く中野のまちの将来

像の実現」、大学の「社会貢献からのフィードバックにより、ふさわしい大学像、果たす使命など、大学の位置付けの明確化」を掲げている。これまでのところ、同大学芸術学部連携事業として定期的に中野区民を対象とした「公開講座」を、春季と秋季、それぞれ4回の講義形式で実施している。

東洋大学は、歴史民俗資料館での講演会や哲学堂公園での講義と現地視察がプログラムされた2日間にわたる「連続公開講座」、ボランティアガイド育成のための「哲学堂公園学習会」、少年少女野球教室（年一回、小学5・6年生対象100名）等を連携事業として実施している。

また、平成21年度には早稲田大学が文化交流の申し出を行い、翌年より文化交流事業として「早稲田大学交響楽団によるクラシックコンサート」が定期的に開催されている。

Ⅳ. 本学と東京都中野区との地域連携体制

本学は、平成22年度に入り間もなく大学提携事業について中野区との本格的な協議に入った。上記Ⅱ 東京都中野区との地域連携にまとめた本学からの申し出に対し、区側では提携可能な分野について「教育委員会」「子ども家庭部（現：子ども教育部）」「地域子ども支援センター」の各担当間において協議が重ねられ、その結果、平成22年8月16日付で本学に対し、以下の通り回答した（担当については、平成23年4月の組織改正前の表記による）。

1. 教育委員会関係

(1) 生涯学習との連携

① 一般区民対象の公開講座

- ・参加費を取らない区民対象の公開講座に対する後援名義の付与
- ・チラシ配布（区施設・生涯学習事業実施時）
- ・インターネットによる紹介（教育委員会HP「公開講座のご案内」からのリンク等）
- ・NICES（中野区広報紙）への記事掲載（講座内容による）
- ・将来は区との協定締結等を経て、公開講座を区と共催することなども考えられる。

(2) 図書館関係

① おはなし会への実習生の受け入れ

「中野区子ども読書推進計画」により、中野区立図書館8館で乳幼児親子や児童を対象に、ボランティア団体と協働で行っている「おはなし会」に、学生の実習体験（見学等を含む）の一環として参加してもらう。

(3) 学校教育等との連携

学校や幼稚園（区立2園）へ、学生をインターン、

現場実習、研修などの形で受け入れる。

2. 子ども家庭部（現：子ども教育部）関係

中野区の幼児教育の質の向上を図るために考えられる連携

(1) 合同研究への講師派遣

① 乳児期（3歳未満児）の保育の研究

0～2歳児の保育経験を有し、保育所の実情を理解している者を講師とし、保育所・幼稚園職員と実施している共同研究への講師派遣

② 就学前教育研究への講師派遣

幼児教育を理解し、幼・保一元化に向けてどのような方向に向かうのかを視野に入れて実施している保育所・幼稚園職員の研究への講師派遣

(2) 幼児研究センターとの合同調査研究

平成19年度より実施している調査研究（子どもの身体能力向上に有効な運動遊びプログラム）を発展させる形で、子どもの身体能力向上の研究にとどまらない、幼稚園・保育所の保育内容をテーマとした調査研究での協力・連携

(3) 保育アドバイザー

保育士に対し、幼児教育の観点から具体的な保育のアドバイスを行うアドバイザーとしての協力

(4) 保育指導

保育所職員に対して実施している様々な研修への講師派遣や保育所現場での遊びの指導等の協力

3. 中部地域子ども家庭支援センター関係

(1) 地域子ども家庭支援センターにおけるネットワークについて

「中部すこやか福祉センター（中央3-19-1、平成22年7月26日開設）」は、中部地域における保健・福祉・子育ての身近な相談場所であるとともに、地域の支えあいネットワークづくりの拠点として位置づけられている。同センターが既存の団体や活動を生かしながら横断的なアクティブネットワークをどのように構築していくかについて、本学が専門的知識、技術支援の提供を行う。

(2) 中部すこやか福祉センター「子育てひろば」（同センターと同時開設）の運営

「見守り職員」（非常勤）により運営されている「子育てひろば」を、地域ニーズを反映した形で地域に開かれた「広場」として位置づけていくために求められる地域の自主団体や地元住民の意見を吸い上げる仕組みづくりについて、専門的知識や技術支援とともに、実際の運営に学生等の恒常的な協力体制の提供を行う。

以上の回答を受けた本学では、さらに検討・協議を行い、子どもを取り巻く様々な問題や課題と共に、地域における子育て支援施策の内容・効果を調査・分析し、専門的かつ継続的な取組を支援するための連携体制を確立、その後の区側の組織改正により一部担当の変更を行った結果、平成23年4月1日からの連携体制を以下の通り定めている（【 】内の表記は、本学担当）。

1. 東京都中野区健康福祉部との連携

- (1) 学習スポーツ分野：生涯学習との連携：一般区民対象の公開講座【広報委員会公開講座担当】
- (2) 健康推進担当【幼児教育学科】

2. 東京都中野区子ども教育部・教育委員会との連携

- (1) 中央図書館：図書館関係：おはなし会等への実習生の受け入れ【幼児教育学科】
- (2) 学校教育分野：区立幼稚園との連携【幼児教育学科】
- (3) 学校教育分野：特別支援教育【研究委員会】
- (4) 保育園・幼稚園分野幼児研究センター：合同研究への講師派遣【研究委員会】
- (5) 保育園・幼稚園分野幼児研究センター：幼児研究センターとの合同調査研究【研究委員会】
- (6) 保育園・幼稚園分野保育指導担当：保育アドバイザー【幼児教育学科】
- (7) 保育園・幼稚園分野保育指導担当：保育指導【幼児教育学科】

3. 東京都中野区地域支えあい推進室

- (1) 中部すこやか福祉センター地域ケア分野：中部すこやか福祉センターにおけるネットワークについて【幼児教育学科】

V. 子ども教育部・教育委員会との連携

こうした地域連携においては、何よりも相互に情報を共有し、良好な関係を図りながら、子どもや子どもの育ちに関する共通理解を有することが必要であるが、とりわけ幼児教育・保育および子育ての質の向上については、前述の通り保育者養成機関と地域における各種サービスや家庭での教育等の連携が不可欠である。

中央教育審議会による『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（平成17年1月28日答申）』においても指摘されているように、近年の子どもの育ちに関し、基本的な生活習慣の欠如や学びに対する意欲・関心の低下等、様々な今日の課題が顕在化している。その一因として家庭および地域社会の教育力低下が指摘されている。これに対応するための幼稚園・保育所等施設の幼児教育・保育機能の拡大等が求め

られているが、当の幼稚園教諭・保育士等の資質・専門性そのものの低下により、子どもと遊べない保育者、保護者とのコミュニケーションがとれない“先生”が、日常的に幼児教育・保育の現場で子どもたちに接し、多様な子育て支援サービスで保護者対応に追われている一方で、生活環境のさまざまな変化から、子育てに余裕が持たず悩む保護者は依然として増えつつある。

こうした現状に対応するためには、子どもを取り巻く様々な問題が子どもに与える影響を分析し、子どもを中心とする地域社会の現況を把握する一方、幼稚園教諭・保育士等の資質と専門性の向上を図り、幼稚園・保育園等施設を核としながら、家庭での教育と地域における子育て支援の取組等を相互に連携させ、「幼稚園等施設・家庭・地域社会」それぞれの教育力を総合的に向上させることで、子どもの生活全体の底上げを行う必要がある。特に家庭における教育力の再生・向上が求められる今日、幼稚園・保育所等施設の保育者が、保護者の子育て力の質・内容の向上を支援することは、子どもの生活の連続性を確保する観点からも非常に重要である。

今日、多くの幼稚園・保育園等施設では、子育てに関する相談や情報提供等が実施されている。本学は、「親・子・保育者が共に育つ」という教育的視点に立った新たな「子育て支援」の在り方を探り、幼稚園・保育所等施設における教育力・保育力向上のための具体的なプログラムを開発・実施し、日常的な子育て支援の実践と専門的かつ継続した取組に関する情報提供および提言を行うため、平成23年度における東京都中野区子ども教育部・教育委員会との連携において【別表】の通り各種研修等への講師派遣等を行っている。

VI. これからの地域連携

子育てに関しては、以下のような具体的な提言により、本学の目指す地域貢献の実現が達成できると考えられる。

幼児教育・保育の変化が社会に与える影響を的確に捉え、幼稚園・保育所等施設を利用している幼児の家庭は勿論、利用していない、特に3歳未満の子どもを育てる家庭や地域社会の教育力の再生・向上に資するための取組も推進しながら、

1. 幼稚園・保育所等施設において、保護者との良好な関係を図りながら、子どもや子どもの育ちに関する共通理解を有し、保護者と協働で地域の子育て力の向上に寄与できる幼稚園教諭と保護者によるスタッフ（ファシリテーター）を養成する。

をはじめ、

2. 国・地方公共団体・民間機関等をはじめ関係団体

や関連施設における子育て施策の現況を調査・分析し、具体的な事例の収集・集約を行う。

3. 幼稚園等施設における子育て支援サービスの現況を調査・分析し、具体的な事例を収集する。
4. 幼稚園等施設との提携を図り、これまでの研究成果等を提供しながら、日常的な子育て支援プログラムを開発・実施する。

中野区との本格的な地域連携が始まって、一年を迎えようとしている。すでに平成24年度における「保育指導」関係の各種研修について日程調整が始まった。こうした研修をはじめとする協力をさらに包括的に進め、相互の人的、知的、物的資源の交流・活用を図り、教育、文化、まちづくり等の分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与するための「協定」締結へと進めていくことが求められている。

別 表

こども教育宝仙大学と東京都中野区との地域連携
 「平成 23 年度実施結果」

1. 健康福祉部学習スポーツ分野「公開講座」

- (1) 中野区教育委員会後援：第3回図書館講演会「いわむらかずお：私の絵本と自然とこども」11月19日
 (2) 中野区後援：こども学区民公開講座「こどもの育ちを考える」林隆嗣、他講師：12月11日

2. 子ども教育部保育園・幼稚園分野「研修」(参加者：区立保育園、区内指定管理者園および私立保育園職員)

日 時	講 師 名	研 修 名	会 場	参加人数
5月24日 (火)	松原 豊	軽度発達障害児研修 「発達障害児とは、適切な援助の方法について考える」	中野区勤労福祉会館 大会議室	42名
6月22日 (水)	伊藤 仁美	保育技術研修 「動いて音楽～わくわく楽しいリトミック～」	こども教育宝仙大学 音楽演習室	31名
6月30日 (木)	松原 豊	軽度発達障害児研修 「気になる子どもの保護者への対応について」	中野区勤労福祉会館 大会議室	31名
7月1日 (金)	有松 順子	特別研修 「保育に活かす記録の取り方と遊びの見方について」 ～記録の達人になる～	中野区役所第8会議室	28名
10月27日 (木)	指田 利和	職員スキルアップ 「魅力ある保護者会とは」	中野区勤労福祉会館 大会議室	34名
11月17日 (木)	菱田 隆昭	園長スキルアップ 「今に生きる保育者論」	中野区勤労福祉会館 大会議室	23名
12月9日 (金)	捧 公志朗	保育実践研修「弥生保育園造形表現活動：のびのびと自分を表現できる子どもをめざして～絵画制作の実践～」	中野区役所第9・10会議室 講評・講義 「子どもの絵画・造形表現について」	35名

平成 24 年度「保育実践研修」：野方保育園「あそびを通してコミュニケーション能力を育てる」

講師：目良秋子

平成 25 年度「保育実践研修」：松が丘保育園「運動遊びへの取り組み」

講師：岩川真紀（予定）

3. 子ども教育部幼児研究センターとの合同調査研究：助言者：岩川真紀「乳児期（3才未満児）の保育」

4. 健康福祉部健康推進分野健康推進「中野区民の健康づくりを推進する会」：推進員：岩川真紀

「なかの健康づくりシンポジウム」区民の生活習慣改善に向けた健康づくりをテーマに、講演と健康づくりの実践報告等 平成 24 年 6 月本学キャンパスにて開催予定